

2024.03.14(木) はんが甲子園に2年ぶり出場  
 ~杜陵高美術・イラスト部「全力で頑張る」【盛岡タイムス】



「はんが甲子園」本選の団体部門に出場する佐藤部長、立澤さん、日野さん（左から）

# はんが甲子園に2年ぶり出場

## 「全力で頑張る」

杜陵高美術・イラスト部  
 本大会への意気込みを示す

杜陵高美術・イラスト部（佐藤部長、部員8人）が、「はんが甲子園」（第24回全国高等学校版画選手権大会）の本選に出場する。北海道、東北では唯一の選出で、同部では2年ぶり4回目。佐藤部長（3年）は「精進まで、版画文化が根付いてほしい」と、全力で頑張る。市で開かれる。団体さん（同）の3人。同作1点に共同で取り組む。

「はんが甲子園」本選の団体部門に出場する佐藤部長、立澤さん、日野さん（左から）

立澤さんは「筋肉に負けないで頑張りたい」と力を込めた。同部門の予選では、各自95枚×40号以内の作品1点を総合的に評価する。テーマは自由。

佐藤部長の「宵一見ルルハ夢ノ蝶」は、夢の人物が寝ている間から暗闇がのぞく様子を描いた。「寝ている姿から、夢を見ている」に連想させている。「普通の人を優しく描く。周りの人が優しく、大事にしている手」が舞っている。あとは目線を確認させたかった。自由で、首の色を明るく

「はんが甲子園」本選の団体部門に出場する佐藤部長、立澤さん、日野さん（左から）

立澤さんは「筋肉に負けないで頑張りたい」と力を込めた。同部門の予選では、各自95枚×40号以内の作品1点を総合的に評価する。テーマは自由。

佐藤部長の「宵一見ルルハ夢ノ蝶」は、夢の人物が寝ている間から暗闇がのぞく様子を描いた。「寝ている姿から、夢を見ている」に連想させている。「普通の人を優しく描く。周りの人が優しく、大事にしている手」が舞っている。あとは目線を確認させたかった。自由で、首の色を明るく

「はんが甲子園」本選の団体部門に出場する佐藤部長、立澤さん、日野さん（左から）

立澤さんは「筋肉に負けないで頑張りたい」と力を込めた。同部門の予選では、各自95枚×40号以内の作品1点を総合的に評価する。テーマは自由。

佐藤部長の「宵一見ルルハ夢ノ蝶」は、夢の人物が寝ている間から暗闇がのぞく様子を描いた。「寝ている姿から、夢を見ている」に連想させている。「普通の人を優しく描く。周りの人が優しく、大事にしている手」が舞っている。あとは目線を確認させたかった。自由で、首の色を明るく

※ 盛岡タイムス 2024年3月14日(木)付 この記事は盛岡タイムス社の許諾を得て転載しています。